豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育

中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第212号
令和７年12月22日

「架け橋期」における教育の充実に向けて

＜主体性をはぐくみ、つなぐ研修会＞

11月6日（木）、中丹地域の幼児教育施設の５歳児担任、小学校１年生担任、中丹地域保幼小連携推進会議構成員を対象に、「主体性をはぐくみ、つなぐ研修会」を開催しました。今回の研修会のゴールを**『「架け橋期」における教育の重要性の理解』**とし、実践発表やインタビュー、講演、研究協議を通して、幼児教育と小学校教育で子どもの学びと育ちをつなぐことの重要性を確かめました。その中で、主体的に学びに向かう力を育む保育・教育の充実に向け、校種を越えて学びを深めました。

実践発表とインタビュー

福知山市立昭和小学校　中川奈保　教諭　　福知山市立昭和幼稚園　加藤百々歌　教諭

福知山市立昭和小学校は、令和５・６年度京都府教育委員会指定の「幼児教育と小学校教育の接続期カリキュラムコンサルテーション事業」を受けられ、その連携園である福知山市立昭和幼稚園と一緒に実践をされてきました。その中で「幼稚園での経験や学びを小学校での学びにつなぐ」ことを柱とし、そのためにまずは**「幼稚園教育を知る」**そして**「幼児期に付けた力を生かせるように、小学校の指導の在り方を工夫すること」**を大切にされてきました。幼稚園と小学校のそれぞれから具体的な事例や、交流の在り方、教師の意識の変化なども含め、たくさんのことを発表していただきました。

インタビューでは、子どもの主体性を引き出す保育にするための工夫や、子どもの思いや願いを大切にした生活科「あさがお」の授業などについて、実践されたことをさらに深く聞くことができました。子どもたちが主体的に学ぶ工夫や具体的な言葉かけなど、実際のエピソードを交えて聞かせていただき、参加されている先生方にとって学びの多い時間となりました。

キーワード「お互いの教育を知る」「指導観の転換」

講　演

京都府幼児教育センター　架け橋期コーディネーター　狩野理恵子　様

「子どもの育ちをつなげる架け橋期における幼小接続」と題して、架け橋プログラムのねらいや取組を講演していただきました。お互いの教育を理解し合い、架け橋は双方向から架けるものだと教えていただきました。

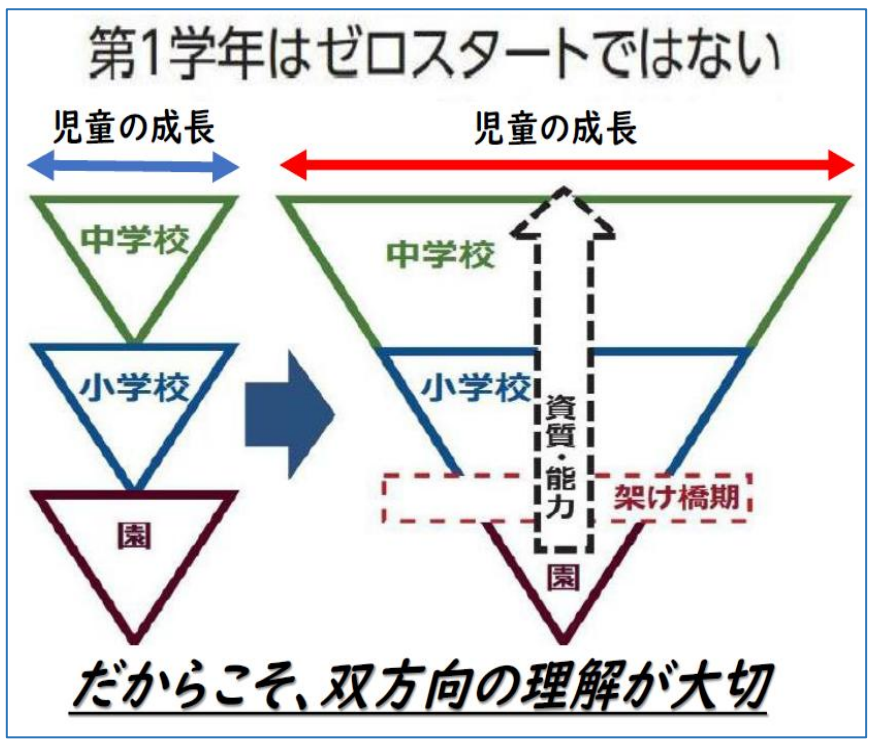
キーワード「学びの連続性」

研究協議

実践発表と講演を受けて、「これから取り組んでいきたいこと」を中心に研究協議を進めました。幼稚園と小学校がゆっくりとお互いの教育を話す貴重な機会となりました。授業改善と保育の質の向上について活発な協議が各グループで見られました。

キーワード「双方向の理解」

学びの要点



参加者の声

・幼稚園、保育園の先生と小学校の先生、違う立場でも対等に話し合える関係性をつくることが何よりも大切だと感じました。そこからお互いの教育についての理解が初めて始まることを学びました。

・子どもの「やってみたい。」を引き出すために、環境構成はとても大切だと学びました。これからは、子どもの実態をよく把握し、教材研究をしていきたいと思いました。

・入学前の子どもたちの学びを知ることが大切で、「１年生は０スタートではない」という言葉が印象的でした。幼児期の遊びの大切さ、小学校ではその体験を学びにつなげていかなければならないと改めて感じました。

・小学校１年生で、「みんなと同じ」にしようとするほど「追い立てる指導」になるという言葉が心に残りました。それぞれ経験したことが違うので、関わり方や指導についても多様である必要性を感じました。今後の実践に生かしていきたいです。